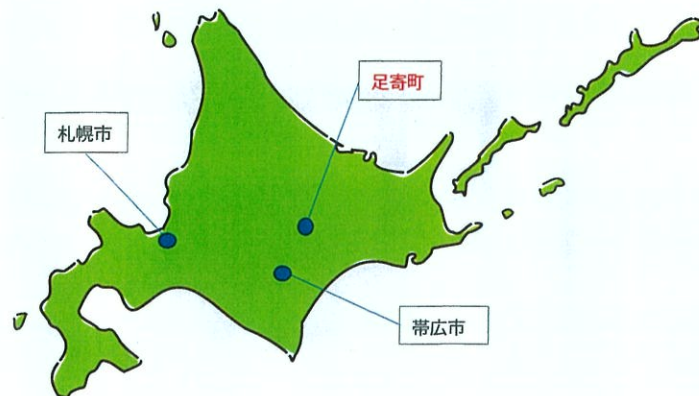


終わりになき図書館ジャーニー vol. 9

足寄町図書館



十勝地方北東部に位置する足寄(あしよろ)町は、約 1400 km²という北見市に次ぐ道内では2番目の面積の広大な町です。なお、2006 年まで日本一広い行政面積でした。森林資源が豊富で、観光では阿寒摩周国立公園の大自然の中にあります。特に「オンネトー」という湖は季節や時間に応じて色彩が美しく変化する魅力的な湖です。

人口約6千人。夏と冬の寒暖差がとても厳しいのが特徴です。

札幌から JR で特急おおぞらに乗り約 3 時間。池田で下車。陸別行きのバスに乗り換え 1 時間ほどで足寄に到着します。バスターミナルは以前の JR 足寄駅。隣には道の駅が隣接します。2006 年まで十勝の池田からオホーツクの北見まで、ふるさと銀河線(旧 JR 池北線)で足寄へ行くことができました。訓子府、置戸、足寄、本別など図書館業界では気になる町ばかり。

さて足寄町といえば、やはりミュージシャンの松山千春さんを思い浮かべる人が多いかと思います。彼が生まれ育った町です。

到着した途端、松山千春一色！至るところにパネルやポスター、道の駅ではレコードなど展示物もたっぷり。もちろん BGM も。挙げ句の果てには足寄町限定による千春饅頭「千～まん」！饅頭に千春の顔をプリント。箱を開けると千春でいっぱい！！「ラワンぶき」を使用しているそうです。ちなみに『ラワンぶき』とは、足寄町の螺湾(ラワン)地域に自生しているアキタブキの仲間が大きくなると高さ 3m、太さが 10cm 以上に育つ日本一大きなフキです。」(JA あしよろ HP より引用)

あいにく今回は購入できず。デビューから知っている私としては、つい見入ってしまいます。今まで足寄に下車したことがなかったので、とても新鮮でした。

バスターミナルから歩いて 10 分ほどに足寄町図書館があります。町民センター2 階です。町では図書館の名前を足寄町図書館「ルイカ」と呼んでいます。図書館が発行する『ルイカつうしん』によると、「町民の皆さまと本を結び、人と人をつなぐ架け橋となるようにと『橋』を意味するアイヌ語で『ルイカ』と名付けています。」とのこと。

建物の作りが T 字になっているので、カウンターをセンターに「読み物コーナー」「調べ物・学習コーナー」「おはなしコーナー/絵本のへや」「雑誌/視聴覚コーナー」と分かれた作りになっています。図書館のオープン は 2018 年 11 月 18 日、蔵書は約 5 万冊。

もちろん「松山千春コーナー」もあります。しかし驚くのはお父さまの松山明さんが発行していた『とち新聞』がデジタルアーカイブで図書館 HP に公開されていることです。

<https://www.town.ashoro.hokkaido.jp/kyoiku-iinkai/toshokan/tokachinewspaper/>

町民センターでの催しはとて多く、例えば足寄町吹奏楽フェスティバルとして、足寄高校（千春の母校）はもちろん、足寄中学校吹奏楽部、足寄ジュニアブラスバンド、足寄吹奏楽団による演奏会など、学生をターゲットにした企画も積極的に行われています。すると必然と学生も図書館に足を運びます。結果 YA ターゲットの書籍も他館より所蔵が多い印象すら感じます。

今回、千春氏の生家に行けなかったのが残念！看板があるのですぐにわかるそうです。現在、大病でコンサート活動など一切できないので、1日も早い復帰を待つばかりです。

2024 年6月訪問

加藤 重男